



## 『 薬とお酒 』



毎晩、お酒を楽しんでいる方も多いと思います。お酒にはアルコールが含まれていて、これは体内に入ると代謝されます。つまり肝臓で酸化されてアセトアルデヒドになり、最後は酢酸に変化した後排泄されます。アルコールに酔いやすい人や二日酔いが生じるのは、代謝の能力によります。

アルコールは、消毒や治療などに使われており一種の薬です。体に様々に働き、脳に作用するほか、血管を拡張する働きや胃への作用、肝臓に対する作用などがあります。いわゆる酔っ払うのも脳に対して作用するからです。ですから抗不安薬や催眠薬のように脳に作用する薬とアルコールを一緒に飲むとこれらの薬の働きが強くなります。一緒に飲まないようにしましょう。

また、アルコールは血液の流れを盛んにし、胃腸からの薬の吸収を促進します。このため、多くの薬との飲み合わせによる副作用が報告されています。薬を飲まなければならない時は、お酒についても相談して確認しておきましょう。



鹿児島厚生連病院

薬剤科長 田中 和子